農学部

115年の伝統を踏まえ、食と生命の未来を拓く。

農学部では、生物資源の生産と活用に関する幅広い知識と技能を身につけ、科学的な思考に基づく課題設定力、国際感覚を備えた判断力とコミュニケーション力に加え、多様で広範な社会の課題解決に向けて、柔軟な思考力を持って自覚的に行動できる人材を養成しています。

学生は、英語による情報の収集力とコミュニケーション力（科学英語、実用英語、専門英語）、地域産業の理解（オリーブ学、希少糖学、うどん学）など幅広い教養を身につけるとともに、生物資源の生産と利用に関する基礎知識と技能を基盤として、2年生後期から下記の5コースに分属して各専門分野を体系的に学び、3年生後期から少人数教育による課題研究（卒業論文）に取り組んでいます。

応用生物科学科

■応用生命科学コース

近年の生命科学やバイオテクノロジー研究のめざましい発展により、生命現象や生物が作る物質の特性や機能を分子レベルで解明して利用することが可能になってきました。本コースでは微生物から高等動植物までの様々な生命活動を分子･遺伝子レベルで明らかにする生命科学の基礎から、その成果を有用生物の開発や生物資源の有効利用へと役立てる応用技術まで幅広く学んでいます。

■生物生産科学コース

21世紀の豊かな社会の発展に求められる安全で安定的な食料供給と生活に潤いをもたらす園芸資源の生産開発をめざして、遺伝子資源の評価と品質改良、生産技術や生産物の流通システムなどを、フィールドからバイオまで体系的かつ実践的に学んでいます。

■環境科学コース

生物と環境の相互利用や環境中の物質循環について、生態系を構成する生物の特性に基づいて学んでいます。特に、香川県を含む瀬戸内圏に特徴的な里海と里山を主な対象として、フィールドおよび実験室･実験圃場で調査解析に取り組んでいます。また、化学的･生物学的手法をはじめとする様々な分野の手法と理論を活用し、ミクロからマクロなスケールにおける現象を時間的･空間的に関連づけて理解します。そして、環境や生物の利用･管理および保全に実践的に取り組む力を身につけます。

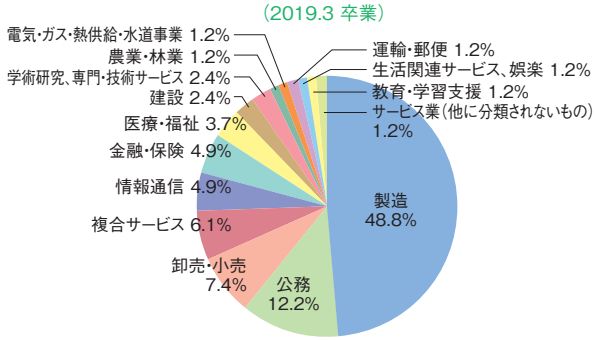
■生物資源環境化学コース

様々な生体の機能を物質レベルで理解し、多様な生物資源の効率的な利用法の開発に必要とされる基盤的知識の習得を目標としています。特に、有用な機能を持つ生物由来の化学物質の探索法、それらの生成･作用メカニズムや分子構造を解明するための化学的手法、さらに再生可能資源としてのバイオマスの高度利用法について重点的に学んでいます。

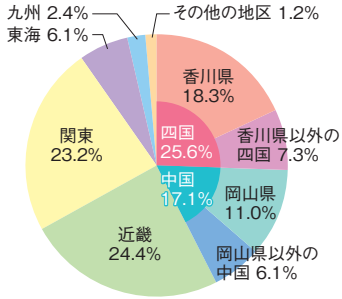
■食品科学コース

食品の持つ人間に対する種々の生体調節機能を化学的側面から理解し、高い嗜好性や機能性を維持した様々な食品の技術開発などを習得し、食品機能、安全性、嗜好性について体系的に、実践的に学んでいます。

業種別就職状況
（2019.3 卒業）



地域別就職状況
（2019.3 卒業 ※進学者を除く）



出身都道府県別卒業見込者数（2021.3）

香　川	37
兵　庫	27
岡　山	16
大　阪	12
徳　島	11
愛　媛	10
京　都	8
愛　知	5
三　重	4
滋　賀	4
鳥　取	4
広　島	4
高　知	4
和歌山	3
その他	14
計	163（人）

主な就職先

大倉工業、オハヨー乳業、カバヤ食品、鎌田醤油、キユーピー、JA西日本くみあい飼料、宗家源吉兆庵、名古屋製酪、日本食品、日本製粉、久光製薬、フジパングループ本社、ヤマザキビスケット、山田養蜂場、勇心酒造、ユニ･チャーム、三浦工業、神鋼物流、高知銀行、イカリ消毒、JA岡山西、全国農業協同組合連合会、岡山労働局、香川県庁、兵庫県庁　など

大学院《●修士課程》

農学研究科

動植物･微生物等の機能や有用性を食料生産、生物資源の利活用と開発、環境の保全等へ広く応用展開する応用生物科学と本学の特色である希少糖に関する高度な専門知識と技能を備え、国内外の多様な生物産業関連分野で活躍できる高度専門人材を育成しています。

本研究科は、2018年4月に1専攻4コース制に改組し、すべての研究分野で希少糖先端科学の教育研究を受けられるようになるなど、先端的かつ柔軟な教育研究を行っています。

また、本研究科にはアジア諸国を中心に10か国以上からの留学生約30名が在学し、教育･研究等を通じて日本企業等とも活発に交流しています。

応用生物・希少糖科学専攻

■希少糖先端科学コース

希少糖研究の歴史的な経緯を踏まえつつ、最新の動向を把握し、希少糖に係る基礎及び応用開発に関する高度な専門知識と技能を身に付け、これらを研究開発や産業応用の場において活用できる人材を養成しています。

■環境生物科学コース

里山、陸水、里海など生活･生産圏の生態系の構造と機能を理解してその保存･修復を図ることができる、あるいは、それらの環境下での生物資源生産システムを最適化して、安定的かつ持続的な生物資源の供給に寄与できる人材を養成しています。

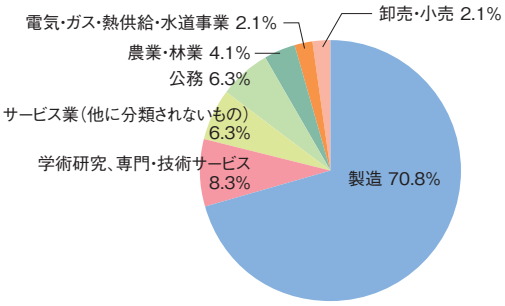
■生物化学・食品科学コース

化学（分析化学･物理化学･有機化学･高分子化学）及び生化学、あるいは食品科学に関する知識と手法を身に付け、健康長寿社会に貢献し、環境に配慮したグリーン社会の構築を担うことのできる人材を養成しています。

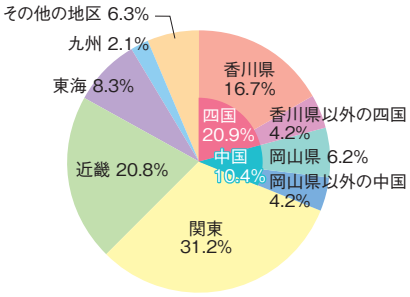
■応用生命科学コース

生命現象や様々な生物が作る物質の特性および機能を、分子･遺伝子レベルで解明し、利用･開発に関する知識･技術を身に付け、微生物、動物、植物の機能の高度な活用を担う人材を養成しています。

業種別就職状況
（2019.3 修了）



地域別就職状況
（2019.3 修了 ※進学者を除く）



出身都道府県別修了見込者数（2021.3）

香　川	12
兵　庫	10
岡　山	7
愛　知	3
大　阪	3
鳥　取	2
京　都	2
徳　島	2
岐　阜	2
高　知	2
静　岡	2
その他	6
計	53（人）

主な就職先

アルフレッサファーマ、上野製薬、OATアグリオ、岡山大鵬薬品、キユーピー、キング醸造、四国日清食品、昭和産業、中部飼料、鶴原製薬、テーブルマーク、帝國製薬、東洋紡、ナガセ医薬品、日本コーンスターチ、日本植生、備前化成、ヒューテック、フジッコ、勇心酒造、ユニ･チャーム、ライオン、新日本科学、香川県庁、高知県庁　など

愛媛大学大学院連合農学研究科（博士課程）

■生物資源生産学専攻　■生物資源利用学専攻　■生物環境保全学専攻

香川大学、愛媛大学、高知大学の農学研究科等が連携協力して、相互に補いつつ、幅広い分野にわたって国際水準の教育研究を行い、広く社会への貢献をめざしています。大学院生の約30%は海外からの留学生であり、国際交流も盛んです。既存の学問の枠組みにとらわれない、幅広い知識と柔軟な発想力をそなえた、これからの社会をリードする農学研究者を養成しています。

※農学部・大学院農学研究科および愛媛大学大学院連合農学研究科について、詳しくは https://www.ag.kagawa-u.ac.jp/ をご覧ください。